

「車いす空の旅 北海道」にボランティアとして県遊協職員が参加

神奈川県遊技場協同組合を母体とする神奈川県福祉事業協会（会長：平川正寿）は、神奈川県新聞厚生文化事業団が年 2 回行っている「車いす空の旅事業」に、県遊協職員がボランティアとして参加しました。これで 4 回連続の参加となりました。

1. 日 時	平成 21 年 9 月 10 日（木）～ 9 月 12 日（土） 2 泊 3 日
2. 場 所	北海道（阿寒湖・摩周湖・網走オホーツク流氷館 等）
3. 主 催	神奈川県新聞厚生文化事業団・神奈川県肢体不自由児協会 共催
4. 参加者	肢体障害者 19 名とその家族及び看護師・ボランティアなど総勢 69 名

5. 概 要 この、県遊協職員のボランティア参加は、神奈川県新聞厚生文化事業団が行っている「車いす空の旅事業」に、昭和 60 年から毎年 300 万円の支援を続けてきていることが経緯となっています。

参加者全員の願いが天に届き、北海道での 3 日間はいずれも晴天に恵まれました。摩周湖は霧もなく奇跡的に澄み渡り、阿寒湖では生まれて初めて見る巨大なマリモに驚き、キタキツネとの遭遇に感激し、マイナス 17 度の極寒の中、本物の流氷にも触れ、北海道の大自然を満喫しました。また、アイヌ古潭（こたん）ではアイヌの方々とふれあい、木彫りの民芸細工、ジャガイモ、生キャラメルなど北海道のお土産をたくさん買いました。

全行程を終えて、羽田空港での解散式では、名残り惜しさとお手伝いしたボランティアの活動に感激し涙を流されている参加者の方もおられました。

なお、この「車いす空の旅」については、9 月 11 日付及び 9 月 13 日付 神奈川県新聞に、それぞれ掲載され、また、今後、特集記事も組まれる予定です。



摩周湖の展望台へはボランティアが車いすを持ち上げ案内します



マリモに感激